

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

March 2021 vol.83

March						
S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

◆ 津島神社（一ノ鳥居）

所在地：津島市埋田町

交通：名鉄津島線「津島」駅 東 約 1km

津島神社の東約 1km、津島市埋田町の、現在では住宅街となった一角に、津島神社の一ノ鳥居の根石が残されています。かつてこの場所は、津島神社へ向かう道と佐屋街道が分岐する、埋田追分と呼ばれた場所で、鳥居の根石とともに、石灯籠と道標も残っています。佐屋街道は、熱田の宮宿から、岩塚・万場（名古屋市）、砂子（大治町）、神守宿（津島市）を経て、埋田追分から佐屋に至る街道で、その後、佐屋宿から「三里の渡し」で桑名宿まで続き、東海道の脇街道として栄えました。熱田から桑名までを結ぶ「海上七里の渡し船」を嫌った人たちに広く利用され、徳川三代将軍家光や、明治天皇が通った跡や記録も街道各地に残されています。

この鳥居のあった埋田追分は、江戸時代の終わりごろには茶店などもあって、行き交う人々で大いににぎわい、大正時代ごろまでは松並木が続いていました。江戸末期から明治初期に描かれた尾張名所図会の『津島・佐屋追分』には、この一ノ鳥居があった場所が描かれた図があり、津島神社



尾張名所図会『津島・佐屋追分』
(イメージ着色、Network2010 HP より)

へ向かう道と佐屋街道の分岐点であったことが見て取れます。図には茶店なども描かれており、上り下りの人々でにぎわっていた様子もよくわかります。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆津島神社（一ノ鳥居）の周辺には…

● 天王川公園（震災記念碑）

所在地：津島市宮川町

交通：名鉄津島線「津島」駅 南西 約 1.4km

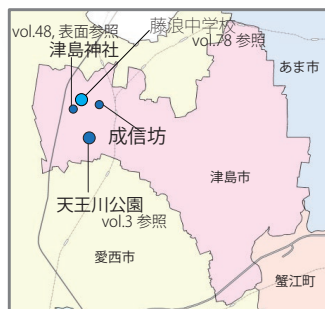
この碑は、明治 24（1891）年濃尾地震の惨害を記録するために建立されたもので、碑表には、海東、海西二郡の罹災の実情、堤防や学校の復旧、救済の様子などが、碑裏には、建碑資金の寄付者名が刻まれています。



● 成信坊

所在地：津島市本町 交通：名鉄津島線「津島」駅 西 約 600m

嘉永 7（1854）年安政東海・南海地震によって太鼓堂玄関が倒れ、また明治 24（1891）年濃尾地震によって全壊しています。



● 藤浪中学校（水難の碑）

所在地：津島市西柳原町

交通：名鉄津島線「津島」駅 北東 約 1km

水難の碑は、伊勢湾台風で大きな被害を受けた海部地域で、災害の記憶を後世に残すため、津島ロータリークラブにより地元の 3 つの中学校に設置が進められたものです。題字は、時の内閣総理大臣・岸信介によります。



◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 開扉祭

開扉祭は、津島神社では「尾張津島天王祭」に次ぐ 700 年以上も続く重要な祭りで、陰暦 2 月 1 日に行われます。「おみと」とも呼ばれています。尾張地方では希少な火祭であり、松明に葎を使用し、水郷地帯であるこの地域の特色が見られることなどから、歴史・文化を伝える民俗行事として市の無形民俗文化財に指定されています。

祭当日は、消防団総勢 50 名の担ぎ手が火のついた 1 対の大松明を担ぎ、東大鳥居から東境内を練り、楼門に一齐に突入して、拝殿前に整列します。その間を神職が拝殿に進み、祭典が行われます。大松明の燃え残りは、昔から「雷除」「歯痛止」「田の虫除」などにご利益があると信仰され、参拝者は争って持ち帰ります。



Aichi Now HP より

あいちの農産物

あいちの伝統野菜・越津ねぎは、江戸時代中期に現在の津島市越津町周辺で栽培され始め、その後、木曽川の沖積地帯を中心に広がり、現在では江南市や一宮市、津島市、稲沢市などで栽培されています。



愛知県園芸農産課 HP より

白い部分を主に食用とする関東・東北の根深ねぎと、緑の葉の部分食用とする関西以西の葉ねぎの中間的な性質を持ち、軟白部分と葉の部分の両方とも食べられるのが特徴です。旬は 10 月から 3 月で、柔らかく甘みがあり、すき焼きや煮物によく用いられます。

●ブレイクタイム●

♪ 円空作千体仏

名鉄津島駅から津島神社を結ぶ天王通りの中間に、江戸時代の行脚僧「円空」が彫った千体仏が安置される千体地蔵堂があります。千体仏は、高さ約 20cm の地蔵菩薩を中心に、周りに 5cm ほどの小仏千体がぎっしりと並べられており、その柔らかなまなざしは、道行く人たちの心を和ませ続けてきました。

全国の円空作千体仏の中でも、完全な形で残っているのはこの地蔵堂だけとされています。現在では、GW の天王川公園の藤まつり期間中の 1 日と 8 月 24 日に開扉され、千体仏を拝むことができます。



津島市の歴史・文化遺産 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 2021 年 3 月）